



本町の教育指標：「進取の気象」「国際性」「社会貢献」

嘉手納町 教育委員会だより

令和8年9月発行 嘉手納町教育委員会



小・中学生に贈る励ましのメッセージ「言葉の花束！」

ゆっくり大人になればよい。

坂上祐子著『ゆっくり大人になればよい』文化書房博文社

子どもたちは親や教師、大人たちから「早く、早く」と目先のことを追い立てられるように生活しています。中には「早くやらなければ」という意識が強迫観念のように重荷となり、不登校や家庭内暴力等、問題行動を引き起こしてしまう子すらいます。ほんとうは、多くの子どもたちは、自分のペースを大切にしながら、生活したいと願っているはずです。そんなとき「ゆっくり大人になればいいんだよ」といってあげるとどれだけの子が救われるかわかりません。(教育長)

北国の仲間と広がる夢の絆、最上広域圏の児童を歓迎

山形県の最上広域圏と沖縄の児童が地域間交流を深める「最上広域圏少年少女沖縄派遣交流団歓迎会」が9月15日、うるま市内のホテルで開催されました。会場では、沖縄の獅子舞や山形の「花笠音頭」が華やかに披露されたほか、児童たちが手作りの名刺を交換し合いました。嘉手納町からは屋良小の眞栄城彩希さん、徳里政乃助さん、嘉手納小の比嘉奏人さん、崎山シエル美空さんの4人が参加。「沖縄の海や文化を紹介したい」「友達をたくさん作りたい」と目を輝かせました。異なる環境で暮らす子どもたちが互いの文化に触れ合うこの体験は、広い視野と友情の精神をしっかりと育んでいます。



世代を超えて考える沖縄とアメリカの未来

9月18日、嘉手納外語塾において、2025年度「アメリカで沖縄の未来を考える（TOFU）」プログラム参加者による「ミニ外交フォーラム in 嘉手納外語塾」が開催されました。企画・運営を担ったのは、外語塾2年生の仲宗根萌さん、卒業生の塚島剛介さん、具志川高校3年生の仲間楓さん。外語塾生と嘉手納基地ボランティアが4グループに分かれ、沖縄とアメリカの文化や生活、環境、嘉手納基地などをテーマに率直な意見交換を行いました。参加した外語塾生からは、「普段の国際交流会よりも本音で基地に対する自分の思い、米軍若手の沖縄への思いを語り合うことができた」との声が聞かれました。対話を通して互いの考えや背景を知り、沖縄とアメリカの同世代がつながる貴重な機会となりました。



今回のアクションプラン「ミニ外交フォーラム in 嘉手納外語塾」は、TOFU プログラムでの学びや経験を踏まえ、日本と沖縄の未来に向けた具体的な提案を行う取り組みです。(仲宗根、塚島、仲間)

働く大人の背中から学ぶ、子どもたちの未来の扉

子どもたちが地域の第一線で汗を流し、働く大人の背中から生きる力を学ぶ「かでなっ子ハローワーク」が広がっています。南国製菓や郵便局、保育所など多彩な町内事業所が連携・協力し、児童生徒を「働き手」として受け入れています。子どもたちは実際の業務やボランティアを通じ、仕事の責任の重さや、生き生きと働く大人の姿に目を輝かせています。さまざまな世代や職種の人々と言葉を交わす中で、社会で生き抜くコミュニケーション能力や豊かな視野が着実に育まれています。



嘉手納町立図書館



嘉手納町役場(都市建設課)



中央公民館(講座)



南国製菓



かでな未来館(藍染)



ニライ消防(心肺蘇生訓練)



嘉手納郵便局



珈琲カメシマ



マクドナルド嘉手納店



miniflower



さんさん保育所



屋良幼稚園



嘉手納幼稚園



子育て支援センター・たいよう学童



嘉手納外語塾



ブルーフィールド



FMよみたん



もりあげ隊(取材活動)

住民の「つどう・まなぶ・むすぶ」拠点へ、多彩な講座がスタート

今年度、本町は東区、中央区、北区に加え、これまで主事の不在だった南区、西区、西浜区にも公民館主事を新たに配置し、全区での地区公民館講座の開催を実現いたしました。本事業は、区民の皆様に多様な学習機会を提供し、学びを軸にした「つどう」「まなぶ」「むすぶ」を通じて人づくりと地域づくりに寄与することを目的としております。さらに、夏休みなどの長期休暇を活用した子ども向けの学習支援や講座も開設し、地域の大人と子どもが世代を超えて交流を深める居場所づくりも進めています。



ゆかたの着付けお稽古



親子でバスボム作り教室



ヒーリングヨガ講座



いきいき健康カラオケ教室



エコクラフトでストラップづくり



アダンの葉で作るブレスレット工作



キャンドル作り講座



小学校高学年「水彩画教室」



熱中症講座



紅型体験講座



おやこでアロマ



親子カヤック

全国へ駆ける！ 陸上クラブが町長に快挙報告

9月29日、嘉手納町のジュニア陸上クラブ「RyukyuStarRaw」の選手らが嘉手納町役場を訪れ、日清食品カップ沖縄県小中学生陸上競技交流会での優秀な成績を報告しました。6年女子100mを制し全国大会への切符を掴んだ知花妃乃さんは、「きつい練習を乗り越えていい結果につながった。全国でも頑張りたい」と目を輝かせました。また、共通コンバインA（ハードル、走高跳）で3位に入った知念奏和さんも「中学校でも頑張りたい」と力強く抱負を語りました。町長は「皆さんの活躍を町のみんなが願っています」と温かく激励の言葉を送りました。



地主会が人材育成へ寄附、子どもたちの未来を応援

嘉手納町軍用地地主会の宮平永康会長らが9月1日、町役場を訪れ、町へ寄附金を贈呈しました。宮平会長は「会員約500名が町に貢献でき、誇りに思う。町がますます発展してほしい」と目を細め、期待を寄せました。温かい浄財を受け取った町長は「子どもたちの目覚ましい活躍や人材育成に役立っている」と、深く感謝の意を表しました。長年続く地主会の温かい想いは、地域の絆を深めながら、未来を担う子どもたちの大きな飛躍をしっかりと支え続けています。



笑いと熱気で交通安全を訴え、秋の運動スタートへ

秋の全国交通安全運動（9月21日～30日）を前に17日、読谷村文化センターで出発式が開催され、交通安全への意識を高めました。会場では、読谷村交通安全友の会によるユニークな寸劇が披露されました。狭い道路での法定速度引き下げ（時速60キロから30キロ）を笑い交えて熱演し、来場者の関心をしっかりと引き寄せました。夕暮れ時の事故防止や早めのライト点灯が呼びかけられています。日没が早まる季節、一人一人が交通ルールを守り、安全安心なまちづくりを進めてまいります。



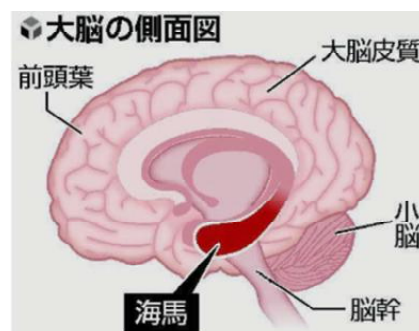
●運動重点（全国重点）

- <歩行者>歩行者の安全確保と反射材用品の着用促進
- <自動車>夕暮れ時の早めのライト点灯と飲酒運転や「ながらスマホ」の根絶
- <自転車>自転車・特定小型原動機付自転車の交通ルールの理解・遵守



しっかり寝る子ほど学力アップ？今夜から見直したい子どもの睡眠

睡眠をしっかり確保することは、子どもたちの記憶力向上と学力アップに直結します。十分な睡眠をとる子どもほど記憶をつかさどる脳の「海馬（かいば）」が大きく成長することが分かっています。しかし近年、デジタル機器の普及などにより、本来眠るべき時間になっても夜更かしをする子どもたちが増加しています。夜遅くまでの強い光は脳を覚醒させ、朝の不調や授業中の集中力低下を招く原因となります。心身の健やかな成長を支えるため、まずは早寝早起きの心地よい生活リズムを家庭全体で整えていきましょう。



（参考）東北大学加齢医学研究所